

大正十一年十二月

室積

縱行二橫行三一
圖幅第一六六號

地質說明書

地質調查所

室積 縱行二橫行三一
圖幅第二六六號 地質說明書

目次

第一章 地質

自一頁至一七頁

- | | | |
|---|--------|-----|
| 一 | 雲母片岩 | 一頁 |
| 二 | 千枚岩 | 五頁 |
| 三 | 上部古生代 | 六頁 |
| 四 | 第三紀 | 九頁 |
| 五 | 洪積層 | 九頁 |
| 六 | 沖積層 | 一〇頁 |
| 七 | 黑雲母花崗岩 | 一一頁 |
| 八 | 閃雲花崗岩 | 一二頁 |



雲母片岩中ニ進入セシ雲母花崗岩床
(山口縣熊毛郡上ノ關村觀島ノ南西海岸)



第二章 應用地質

- 九 花崗斑岩
 - 十 ベグマタイト
 - 十一 石英斑岩
 - 十二 石英玢岩
 - 十三 閃綠玢岩
 - 十四 兩輝石安山岩
 - 十五 集塊岩
- 第一章 應用地質
- 一 滿庵鑛
 - 來卷鑛山
 - 二 石灰
 - 三 建築石材

自一七頁至一九頁

- 一三頁
- 一四頁
- 一四頁
- 一五頁
- 一五頁
- 一六頁
- 一七頁
- 一七頁
- 一七頁
- 一八頁
- 一九頁

圖 一 節



角 岩 の 標 本 々 々 々
(山口縣熊毛郡宗積町作島海岸)

圖 二 節



角 岩 の 標 本 々 々 々
(山口縣熊毛郡下松町宮ノ洞ノ南海岸)

第一圖



角岩中ノ斷崖
(山口縣鹿野下松町安ノ瀨ノ南海岸)

第二圖



北向岩岩壁
(山口縣鹿野郡宮崎町赤岩)

室積 縦行二横行三一 圖幅第二六六號 地質説明書

農商務技手 赤木 健

第一章 地質

一 雲母片岩

雲母片岩

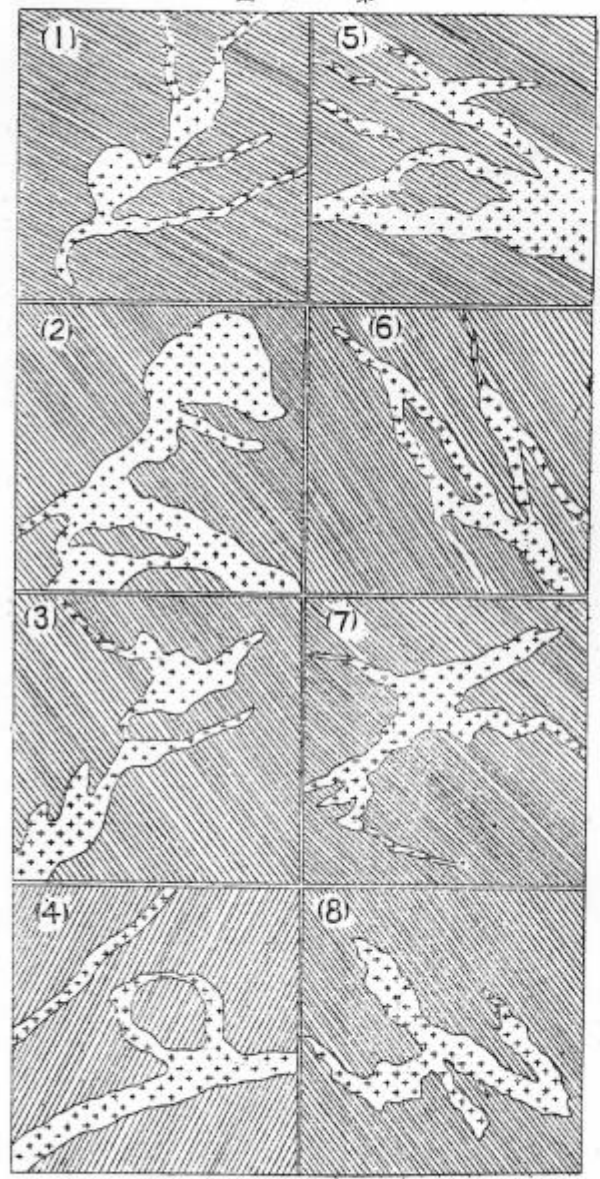
祝島ヲ構成スルモノ 岩石—黝黑色乃至灰紫色ヲ呈シ緻密堅硬ニシテ片理明カ
ナリ、主成分—石英、黒雲母副成分—白雲母、磁鐵礦、燐灰石、風信子礦、石榴石等、
「レ」ビ
ドブラスチツク構造

室積ノ北方ノモノ 岩石—暗灰紫色ヲ呈シ前者ニ比シテ粗粒ナリ、成分—前者ノ
外少量ノ斜長石、珪線石アリ、石榴石ハ菱形二十四面體ニシテ直徑三耗ニ達スルモ
ノアリ、珪線石ハ針狀ヲ呈シ東狀ニ群集ス

石英片岩

岩石—灰白色 主成分—石英 副成分—黑雲母、白雲母、柘榴石、磁鐵礦等 「レピド
 ブラスチック」構造 石英片岩ハ雲母片岩ト薄ク互層シ厚サ一釐乃至二釐ニシテ

圖 一 第

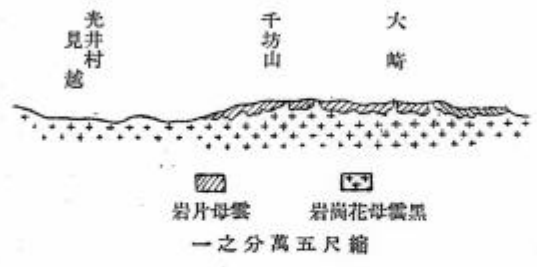


岩崗花母雲黑 岩片母雲 突米二

雲母片岩ハ厚サ〇・二釐乃至一釐ナリ

祝島ニ於テハ雲母片岩ノ層向ハ西部ニ於テハ北二十度乃至三十度東ニシテ東ニ

圖 二 第



岩片母雲 岩崗花母雲黑
 一之分萬五尺縮

急斜スレトモ東部ニ於テハ北七十度乃至八十度東トナリ
 南方ニ急斜スルニ至ル、蓋シ此間斷層ノ存在スルニ因ルモ
 ノナルヘシ、花崗岩ハ岩脈或ハ岩床ヲナシテ雲母片岩中ニ
 貫入ス、岩床ハ其厚サ〇・二米乃至數米ニシテ海岸ノ斷崖ニ
 於テハ其延長百米ヲ追跡シ得ヘク其數夥多ニシテ最モ多
 キトコロニテハ海岸ノ絶壁ニ於テ其數十以上ヲ算スルト
 コアアリ(第一版第一圖及第二圖參照)
 岩脈ハ概シテ其幅岩床ヨリ狭ク一釐乃至數米ニシテ明ニ
 岩床ヨリ分岐シタルヲ目撃シ得ルモノアリ、其露頭ヲ見ル
 ニ或ハ岩層ニ沿ヒ或ハ此ヲ横キル等甚タ不規則ニシテ其
 末端ハ尖滅スルヲ普通トス

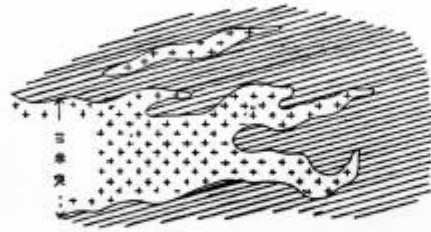
室積ノ北東方ノ雲母片岩ニハ普通其幅三米乃至十數米ノ花崗岩脈數多進入シ爲ニ地層錯亂シ一定ノ層向ヲ知ルコト難ク其厚サヲ算定スルコト困難ナリ(第三圖第四圖)

而シテ野地、千坊山ノ南西方等ニテハ岩脈殊ニ多シ、三輪村石田ノ南東方及三井村ト島田村トノ村界ニアル山丘ノ頂上ハ雲母片岩露出シ其周邊附近ニハ此地方ニ

廣ク分布セル花崗岩上ニ該岩ノ稜角アル岩片ノ數多散在スルヲ見ル

又島田川ノ東方ニ發達スル花崗岩ヨリ成ル丘陵地上ニハ處々ニ一種乃至十種ノ稜角アル雲母片岩々片散在ス、此岩片ハ其稜角アルヨリ及ヒ他ノ岩石ヲ混セサルニヨリ察スルニ他ヨリ運搬セラレタルモノニアラサルヘク、惟フニ前記三輪村石田及三井村ト島田村トノ村界附近ニ於ケルカ如ク花崗岩上ニ在リシ雲母片岩ノ風化浸蝕ノ爲ニ削剝セラレ現ニ

第三圖



雲母片岩 黒雲母花崗岩

見ルカ如キ岩片トナリテ該岩上ニ散在スルニ至リシモノナラン
 是ニ由リテ察スルニ雲母片岩ハ島田村ヨリ岩田村及三輪村ニ互リテ更ニ廣域ニ
 花崗岩上ニ分布セシモノナラン
 室積北東方ノ雲母片岩ト花崗岩ノ分布ハ甚タ複雑且ツ不規則ニシテ地質圖上兩
 者ヲ區別スルコト困難ナルトコロアルヲ以テ花崗岩ヲ雲母片岩トシテ塗色セシ
 モノ少カラス

二 千枚岩

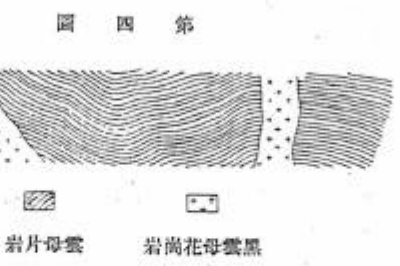
石墨千枚岩

岩石—黝黑色乃至黑色ヲ呈シ薄ク剝理シ易シ、主トシテ石英、石墨ヨリ成リ絹雲母、斜長石、綠泥石ヲ交フ

石英千枚岩

岩石—紅褐色乃至灰紫色ヲ呈シ、主トシテ石英ヨリ成リ黒雲母、絹雲母、柘榴石ヲ交フ

向島赤崎ノモノ、前者ト稍外觀異ナリ白色ヲ呈シ絹絲光澤ヲ有シ片理著シク小褶曲ヲ成ス、本岩ハ前者ニ比シ多量ノ黑雲母及白雲母ヲ含有ス



石墨千枚岩ハ厚サ四千米以上ニシテ石英千枚岩ヲ介在シ向島及中ノ關ニ於テハ南方ニ急斜シ大津島及太華村ニ於テハ北五十度乃至七十度東ニ走リ北西ニ急斜ス千枚岩ハ從來下部古生層トシテ區別セラレタルモノナルモ茲ニハ千枚岩トシテ上部古生層ノ下位ニ編入セリ

三 上部古生代

粘板岩

岩石—灰黑色乃至黑色ヲ呈シ方片ニ破碎シ易シ、虹ヶ濱ノ西方鐵道切割ニ厚サ〇・五米ノ暗灰色ノ砂岩層介在ス

變質粘板岩

變質粘板岩ハ大部分雲母粘板岩ニ屬シ灰黑色ヲ呈シ多量ノ黑雲母ヲ含有ス、此外小部分ニ紅柱石粘板岩アリ、紅柱石粘板岩ハ虹ヶ濱ノ西方鐵道掘割ニノミ露出シ雲母ノ外多量ノ紅柱石ヲ含有スルモノナリ、紅柱石ハ長サ一糎内外直徑一耗ニ達スル柱狀結晶ニシテ大部分ハ白雲母ニ變化ス

角岩

厚サ〇・五糎乃至二糎ノ角岩ト厚サ〇・二耗乃至一耗ノ粘板岩ト互層スルヲ普通トシ、角岩ハ灰白色ヲ呈シ粘板岩ハ其性質前記ノモノト同シ

石灰岩

岩石—暗灰色乃至白色ヲ呈シ結晶ス

概言スレハ粘板岩ハ下部ニ、角岩ハ上部ニアリ、粘板岩ハ下部ニハ厚サ十米乃至五十米ノ角岩ヲ介有シ上部ニ至ルニ從ヒテ角岩次第ニ厚ク達ニ角岩ニ移過ス、粘板岩ハ其厚サ約五千米、角岩ハ其ノ厚サ約二千米ニ達スヘシ、石灰岩ハ數層アリテ角

岩層中、或ハ粘板岩中ニ扁桃狀ヲナシテ介在シ厚サ十米以下ナリ
 層向ハ笠戸島及久保村ニ於テハ一般ニ北六十五度乃至八十度東ニ走リ北西ニ急
 斜スレトモ三井村佐内ノ北ニ於テハ北七十度乃至八十度東ニ走リ南南東ニ急斜
 ス、是ノ變位ハ兩者間ニ斷層ノ存在スルニヨルモノナルヘク、徳山圖幅地ノ烏帽子
 嶽ノ西ニ於テ南北ニ走ル斷層ハ恰モ該斷層ノ延長線ニ該當ス、野島ノ西部ニ於ケ
 ル層向ハ東部ニ於ケルモノト甚シク異ナレリ、是レ亦北東ヨリ南西ニ走ル斷層ノ
 存在スル結果ナラン

室積峨嵋山及水無瀬島ニ於テハ地層ハ北六十度乃至七十度西ニ走リ南々西ニ急
 斜ス、峨嵋山ノ南側杵崎ノ海岸ノ一部ニハ單斜層中ニ第二版第一圖ニ示スカ如ク
 著シク褶曲セル所アリテ其厚サ約〇六米ナリ、下松宮ノ洲海岸ニ於テハ角岩ハ第
 二版第二圖ニ示スカ如ク小ナル扇狀褶曲ヲ形成シ又其附近ニ第三版第一圖ニ示
 スカ如キ斷層ヲ目撃スルヲ得ヘシ

本層ニハ化石ヲ發見セサレトモ本邦他ノ地域ニ於ケル上部古生層ト岩質酷似ス
 ルヲ以テ之ヲ上部古生層ニ編入シタリ

四 第三紀

砂岩及變岩

砂岩ハ暗黄灰色ヲ呈シ細粒乃至中粒ニシテ主ニ石英、長石粒ヨリ成ル
 變岩ハ暗黄灰色ヲ呈シ大ナ五種乃至十五種ノ黝黑色ノ雲母片岩礫及極メテ少量
 ノ花崗岩礫ノ細粒乃至中粒ノ石英及長石粒ト共ニ堅ク膠結セラレタルモノナリ
 砂岩及變岩ハ概シテ互層スルモ互ニ移過スルコトアリ
 本層ハ安山岩ニ被覆セラレテ僅ニ祝島ノ北岸ニ露出シ露頭ニテ計算シタル厚サ
 約二十五米ナリ、化石ヲ發見セサリシヲ以テ其地質年代明ナラス、層向ハ北七十度
 西ニシテ南々西五度乃至十五度ニ傾斜ス

五 洪積層

岩田村岩田驛附近ニ臺地ヲ成ス洪積層ハ厚サ六、七米ニ達シ主ニ硅岩及花崗岩礫
 ヲリ成リ上部ニ僅ニ砂アリ

淺江村及烏田村ニ臺地ヲナスモノハ厚サ約四米ニシテ主ニ四種乃至十種ノ硅岩及花崗岩ノ圓礫ヨリナル、室積町ノ北ニ於テハ厚サ約四米ナリ、礫ハ大ニシテ圓キモノ及角稜アルモノアリ、主ニ雲母片岩、角岩、花崗岩ヨリ成リ上層ニハ圓礫ヲ雜ユル砂土層アリ、戀ヶ濱附近ニ發達スルモノハ厚サ三米ニシテ砂及礫ノ互層ヨリナル、礫ハ○五種乃至三種ニシテ丸味アル花崗岩、粘板岩、砂岩等ヨリ成ル

六 沖積層

本層ハ砂礫及泥土ヨリ成リ河岸、河口及海岸ノ平地ヲ構成ス
島田川河口ノ沖積地ニハ海岸ニ沿ヒテ高サ三米餘ノ沙丘發達ス
室積象ヶ鼻ノ沙嘴ハ峨帽山ノ東端ヨリ北々東ニ突出シ長サ五百五十米、幅ハ基部ニアリテハ百五十米アレトモ次第ニ狭小トナリ先端ハ西ニ曲リテ廣ク幅百五十米アリ、其高サハ約四米ニシテ東側ニハ石垣ヲ築ケリ、沙嘴ヲ構成スルモノハ砂及礫ニシテ礫ハ主ニ扁平ナル丸キ粘板岩ヨリ成リ大サ一種乃至五種アリ
宮ノ洲ノ沙嘴ハ宮ノ洲山南西端ヨリ南西ノ方向ニ突出シ長サ約五百五十米、幅二

十五米乃至三十五米ニシテ先端ハ尖レリ、高サ約一米餘ニシテ大サ一種乃至數種ノ扁平ナル粘板岩圓礫ヨリ成ル

七 黑雲母花崗岩

岩石—灰白色ヲ呈シ中粒乃至粗粒、主成分—石英、正長石、灰曹長石、黑雲母、副成分—微斜長石、燐灰石、風信子鑛、磁鐵鑛等、石英ハ微粒子、黑雲母ヲ包裹シ往々正長石ト共ニ微文象構造ヲナス、正長石ハ大サ三耗以下ニシテ、カルスバド式雙晶ヲナスモノ多ク燐灰石微晶ヲ包裹ス、灰曹長石ハ正長石ヨリ形小ニシテ累帶構造ヲ呈シ單晶及雙晶アリテ燐灰石、風信子鑛及黑雲母ヲ包裹ス、黑雲母ハ大サ二耗以下ニシテ板狀ヲナス、微斜長石ハ特有ナル格子狀構造ヲ呈シ風信子鑛ヲ包裹ス
本岩ハ室積ノ北方ニ廣ク發達シ雲母片岩ニ接スル所ニハ岩床或ハ岩脈ヲナシテ雲母片岩ヲ貫通ス

本岩ハ亦細粒質白色ノ花崗岩及、ベクマタイト岩脈ニヨリテ貫カル、細粒質花崗岩ノ岩脈ハ赤岩ニ於テ數條ヲ算スヘク其大ナルモノハ幅○二米ニシテ長サ十數米

ニ達シ北六十度西ニ走リ北東北ニ五十度傾斜ス(第三版第二圖)其他ノモノハ幅〇一米内外ニシテ互ニ平行シ或ハ交リ又、ベグマタイト岩脈ト交又スルヲ見ル祝島ノモノ、白色中粒ニシテ黒雲母少ク先ニ記述シタルカ如ク雲母片岩中ニ岩脈或ハ岩床ヲナシ其數甚タ多ク其厚サ〇五乃至數米ニ達シ地質圖上ニハ其大ナルモノ、ミヲ陰色シタリ

赤岩南東ノ海岸ノモノ、柘榴石ヲ多量ニ含有シ含柘榴石花崗岩ト稱スヘキモノナリ、柘榴石ハ紅色ヲ呈シ大サ〇五耗乃至一耗ニシテ微粒質物ヲ包裹ス、柘榴石ハ岩石分解ノ結果分離シテ海岸ニ堆積シ所謂柘榴石砂ヲナス處アリ

本岩ハ雲母片岩及黒雲母花崗岩中ニ岩床或ハ岩脈トシテ之ヲ貫通シ幅〇五乃至四米餘ニシテ赤岩ヨリ梶取岬ニ至ル海岸ニ數ヶ所ニ岩脈ヲナシテ雲母片岩及花崗岩ヲ貫通ス、其雲母片岩ニ接スル所ニハ兩岩石ニハ特ニ多量ノ柘榴石アリ

八 閃雲花崗岩

岩石—灰白色ヲ呈シ中粒乃至粗粒 主成分—正長石、灰曹長石、石英、黒雲母、角閃石

副成分—磁鐵鑛、磷灰石、風信子鑛等、正長石ハ虹ヶ濱ノ西方ニテハ二種ニ達スルモノアレトモ三耗以下ノモノ普通ニシテ、カルスバド式雙晶ヲナス、灰曹長石ハ正長石ヨリ小ニシテ、カルスバド、ベリクリン、アルバイト式雙晶ヲナシ屢々累帶構造ヲ呈シ、角閃石、長石微晶、磷灰石、風信子鑛粒ヲ包裹ス、石英ハ大サ五耗以下ニシテ微粒質物ヲ包裹ス、黒雲母ハ大サ二耗以下ニシテ葉片狀ヲ呈ス、角閃石ハ淡褐色乃至黃褐色ヲ呈シ大ナルモノハ長サ一糎ニ達シ、柱狀ニシテ多色性著シク柱面劈開發達シ、磁鐵鑛及磷灰石ヲ包裹ス

九 花崗斑岩

岩石—暗灰色ニシテ千枚岩中ニ岩脈ヲナス、斑晶—正長石、灰曹長石、石英、角閃石、黒雲母、正長石ハ大サ六糎以下ニシテ卓子狀ヲ呈シ、カルスバド式雙晶ヲ成スモノ多ク累帶構造ヲ成シ角閃石微晶及磁鐵鑛粒ヲ包裹ス、灰曹長石ハ大サ三耗以下ニシテ其量正長石ヨリ少ク聚片雙晶ヲ成スモノ多ク角閃石微晶ヲ包裹ス、石英ハ其量少ク大サ五耗ニ達シ融蝕セラレ龜裂多シ、角閃石ハ大サ二耗乃至〇五耗ニシテ

多色性著シク燐灰石及磁鐵鑛ヲ包裹ス、黒雲母ハ殆ト綠泥石ニ變化シ往々多色性「ハロ」ヲ認ムルコトアリ、石基―暗灰色ヲ呈シ主トシテ石英及長石ヨリナリ滑石、燐灰石等ヲ含ミ完晶質ニシテ微文象構造ヲ呈ス

十 「ベグマタイト」

岩石―白色ニシテ粗粒ナリ、室積赤岩ニ於テハ數條ノ岩脈平行シテ黒雲母花崗岩ヲ貫通シ時ニ「ベグマタイト」ト交又ス岩脈ハ最大ナルモノハ其幅〇・二米、長サ四米餘ナリ、斯ク狭小ナルヲ以テ地質圖上ニハ之ヲ塗色セス

十一 石英斑岩

岩石―灰白色ニシテ太華村ニ於テ石英玢岩及千枚岩ヲ貫通ス、斑晶―石英、正長石、斜長石、石英ハ大サ二耗以下ニシテ不規則形ヲ呈シ僅ニ融蝕セラレ龜裂多ク包裹物ノ爲メ汚濁スルモノアリ、正長石ハ普通單晶ニシテ龜裂多シ、時ニ融蝕セラル、斜長石ハ單晶若クハ雙晶ヲナシ微粒質物ヲ包裹ス、石基―灰白色ニシテ石英長

石及黒雲母ヨリ成リ微硅長質構造ヲ呈ス

十二 石英玢岩

岩石―暗灰色乃至灰綠色ヲ呈シ太華村ノ北部ニ於テ千枚岩ヲ貫通ス、斑晶―斜長石、斜長石ハ大サ三耗以下ノ短柱狀ヲ呈シ累帶構造明ニシテ「カルスバド」アルバイト式雙晶ヲナシ、角閃石微晶、黒雲母及磁鐵鑛ヲ包裹ス、石基―石英、斜長石、黒雲母、角閃石及燐灰石等ヨリ成リ微花崗質構造ヲ成ス

十三 閃綠玢岩

岩石―暗灰綠色ヲ呈シ岩脈ヲナシテ千枚岩ヲ貫通ス、斑晶―斜長石、角閃石、黒雲母、輝石、斜長石ハ大半ヲ占メ、大サ二耗以下ニシテ柱狀或ハ桌子狀ヲ呈シ「アルバイト」カルスバド式雙晶ヲ成シ輝石、磁鐵鑛及燐灰石ヲ包裹ス、分解スレハ方解石ニ變ス、黒雲母ハ板狀ニシテ多クハ綠泥石ニ變化シ多色性及多色性ハ著シク磁鐵鑛、燐灰石及風信子鑛ヲ包裹ス、角閃石ハ淡褐色ヲ呈シ柱狀ニシテ時ニ陽起石ト平行

連晶ヲナスモノアリ、輝石ハ其量少ク短柱狀ヲ呈シ龜裂發達ス、石基ハ完晶構造ヲナシ○ニ耗内外ノ斜長石ヨリ成リ磁鐵鑛、燐灰石等ヲ交フ

十四 兩輝石安山岩

岩石—黝黃色乃至灰黑色 斑晶—透輝石、紫蘇輝石、曹灰長石、透輝石ハ濃綠色ニシテ大サ一耗乃至五耗ノ短柱狀ヲナシ劈開龜裂ニ富ミ輝石微晶ヲ包裹ス、紫蘇輝石ハ暗綠色ニシテ短柱晶ヲナシ多色性著シク前者ヨリ形小ナリ、曹灰長石ハ大サ二耗以下ニシテ、柱狀或ハ卓子狀ヲ呈シ「アルバイト」「カルスバッド」式雙晶發達ス
石基—斜長石、透輝石、磁鐵鑛、玻璃基ヨリ成リ填間構造ヲ呈ス
祝島ノ北西ナル三浦ニ露出スルモノハ暗灰色多孔質ニシテ透輝石ノ斑晶散點シ時ニ孔隙中ニ沸石成生ス

本岩ハ祝島及小祝島ノ頂部ニ熔岩流ヲナシテ現出シ祝島ノ南西岸ニ絶壁ヲナシ雲母片岩層ヲ蔽フモノハ該岩ニ接スル所ニ於テ柱狀節理發達ス

十五 集塊岩

兩輝石安山岩塊ノ、暗褐色凝灰質物ニヨリ膠結セラレタルモノナリ、岩塊ハ多孔質ニシテ大サ十糎乃至十五糎ニシテ圓形ヲ呈シ大サ五耗ニ達スル輝石斑晶散點ス、本岩ハ兩輝石安山岩上ニアリ兩者ハ共ニ噴出シタルモノニシテ祝島ノ臺地ノ東部ニ露出ス

第二章 應用地質

一 滿俺鑛

來卷鑛山

本鑛山ハ都濃郡久保村來卷ニアリテ烏帽子嶽ノ南方ニ位ス、其ノ發見ノ年月ハ詳ナラサルモ明治二十六、七年頃採掘セシモノ、如ク、其後休山シ大正四年ヨリ寺本某之ヲ稼行シ、同六年高田鑛業株式會社之ヲ繼承シ大正八年ニ至リ休山セリ、大正四年以降ノ滿俺鑛採掘高ハ次ノ如シ

大正四年 二七〇九噸

同 五年 一二三九噸

同 七年 二五九三噸

鑛山四近ハ古生代ノ角岩ヨリ成リ一般ニ北七十度乃至八十度西ニ走リ南西ニ七十度乃至八十五度傾斜ス、鑛床ハ探掘跡ニヨレハ角岩中ニ挟在シ幅〇八米乃至二米ノ間ニ膨縮シ延長二十米餘、露天掘或ハ坑道ニヨリテ探掘セラレタリ、露天掘ニ於テハ地表ヨリ鑛床ノ傾斜ニ沿ヒ約十米掘下シ、坑道掘ニ於テハ現在ハ廢類シタルヲ以テ入坑シ得サルモ其坑口附近ヨリ察スルニ走向ヲ追ヒテ掘進シ更ニ傾斜ニ沿ヒ上下ニ鑛石ヲ探掘シタルカ如シ、地表ニ近キ所ハ既ニ掘盡サレタルカ如ク鑛石ハ黒褐色ノ硬滿俺鑛ナリ

二 石 灰

笠戸島ノ笠戸、北網代及尾郷ニ於テハ石灰岩ヲ採取シテ石灰ヲ燒成ス、該石灰岩ハ粘板岩中ニ介在ス、幅ハ現ニ探掘スル所ニ於テハ中央部ニ於テ最厚十米アリ、尾郷

ニ於テハ中央部ニ最モ厚ク十米内外ナルモ兩側ニ稍狭ク七米餘ナリ

笠戸ニ於テハ一方ニ次第ニ狭ク三米ニ縮薄シ、一方ハ土ニ蔽ハル、北網代ニ於テモ一方ニ狭ク約二米ニ縮薄セリ、前記探掘場附近ニ數ヶ處ニ石灰爐アリテ石灰ヲ燒成ス

三 建築石材

光井村新畑ニ於テ黒雲母花崗岩ヲ採取ス、該花崗岩ハ灰黒色中粒ニシテ石材トシテハ黒雲母ノ存在ニ様ナラサル爲メ外觀美ナラス、一切八十錢内外ナリト云フ、其他ノ地方ニアル花崗岩ハ表面多クハ風化シ未ダ石材トシテ利用セラレタルコトナシ

大正十二年三月二十六日印刷
昭和十二年三月二十九日發行
昭和十三年一月十二日再版印刷
昭和十三年一月十五日再版發行

定價金五拾錢

著作權所有 商 工 省

印刷者 東京市日本橋區兜町二番地 神谷次郎

印刷所 東京市日本橋區兜町二番地 東京印刷株式會社

發賣所 東京市日本橋區兜町二番地 東京印刷株式會社

發賣所 東京市日本橋區通三丁目 丸善株式會社

振替口座 東京 五番

EXPLANATORY TEXT

OF THE
GEOLOGICAL MAP OF JAPAN

Scale 1 : 75,000

MUROZUMI

Zone 31 Col. XXI

Sheet 266

By

Tsuyoshi Akagi

Geology

Mica Schist develops northward of Murozumi and in Iwaishima, where it forms the base of the island and trends N. 20°-30° E. dipping 60° E.S.E. It is intruded by granite and is extremely disturbed in the northeast of Murozumi.

Phyllite develops in Mukojima and Taikwamura, and runs N. 70°-80° E. dipping 70° N.N.W. It is about 4,000 m. in thickness.

The Upper Palæozoic generally strikes N. 70°-80° E. dipping 60°-76° N.N.W. It is about 7,000 m. in thickness.

The Tertiary sandstone and conglomerate develop along the cliff on the north side of Iwaishima and measure about 25 m. in thickness.

Diluvium and Alluvium, consisting of sand and gravel, develop near the rivers and along the coast.

Biotite granite and hornblende biotite granite occur in a wide area, intruding the Upper Palæozoic rocks.

Granite porphyry, pegmatite and quartz porphyry occur in phyllite and granite as dykes.

Quartz porphyrite and diorite porphyrite intrude the phyllite as dykes .

Pyroxene andesite extruding the mica schist, occupies the tops of Iwaishima and Koiwaishima.

Economic Geology

Manganese ore: The Kurumaki mine is situated to the southwest of Eboshidaké and yielded about 259 tons of ore in 1917, but it has now been wrecked. The deposit is intercalated in hornstone with a thickness of from one to two feet and runs N, 80°-90° W. with the inclination N. 70°-85°. The ore is psilomelane.

Limestone: Limestone is quarried and burnt out at several places in Kasado-jima.

Building stone: Biotite granite is quarried at Shimbata in Mitsumura; but it is only used locally for foundation and wall materials.
